

■コメント

1. 手足口病

定点当たり8.17人の報告があり、多い状況が続いています。手足口病は数年おきに比較的大きな流行となる傾向にあり、今年は2015年以来の流行となっています。

2. ヘルパンギーナ

定点当たり0.83人の報告があり、前週と比べてやや増加しました。

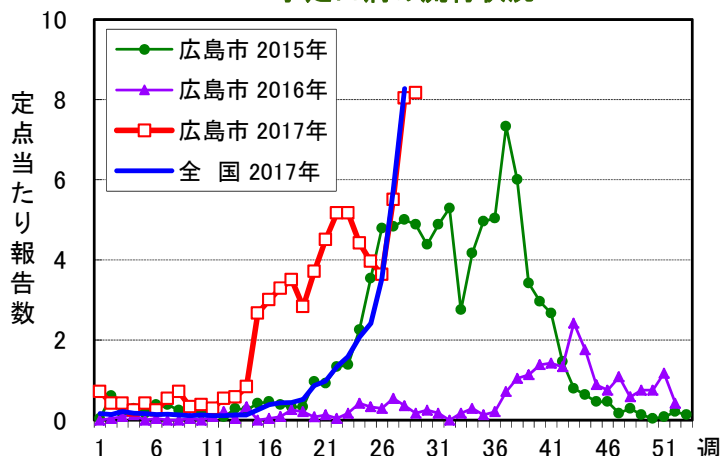
手足口病やヘルパンギーナは、乳幼児を中心に夏季に流行する感染症です。

これらの感染症は、回復して症状がなくなっても2～4週間程度は便中にウイルスが排泄されますので、手洗いの励行、オムツの適切な処理を心がけるなど、感染予防対策を徹底しましょう。

3. 梅毒

2件の報告があり、今年の累計は34件となりました。

手足口病の流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注)間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注)間	発生記号
フィリ	インフルエンザ	1	0.03	0.01		小児科	流行性耳下腺炎	3	0.13	0.80	
小児科	咽頭結膜熱	14	0.58	0.93		小児科	RSウイルス感染症	9	0.38	0.12	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	63	2.63	1.47		眼科	急性出血性結膜炎	1	0.13	0.10	
	感染性胃腸炎	110	4.58	4.06		眼科	流行性角結膜炎	8	1.00	0.93	
	水痘	8	0.33	0.61		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	196	8.17	3.48			無菌性髄膜炎	-	-	0.09	
	伝染性紅斑	1	0.04	0.19			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.32	
	突発性発しん	4	0.17	0.43			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	4	0.17	0.07			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	20	0.83	2.77							

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	85	男性(70歳代)・1人、女性(70歳代)・1人、男性(80歳代)・1人
5	梅毒	2	34	男性(40歳代)・1人、男性(50歳代)・1人

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

		インフル エンザ	咽頭結 膜熱	A群溶 血性レ ンサ	感染性 胃腸炎	水痘	手足口 病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	ヘルパ ンギー ナ	流行性 耳下腺 炎	RSウイル ス感 染症	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺 炎	クラミ ジア肺 炎	(感染性 胃腸炎 (ロタ ウイルス)
報告数	広島市	第25週	-	16	102	176	6	95	2	12	-	9	4	-	-	18	-	-	-	1
		第26週	-	17	68	148	5	87	2	8	-	11	3	3	-	15	-	-	-	-
		第27週	-	17	48	185	3	132	9	12	-	18	3	6	1	12	-	-	-	-
		第28週	2	13	50	153	11	193	3	9	-	14	6	6	-	12	-	-	1	-
		第29週	1	14	63	110	8	196	1	4	4	20	3	9	1	8	-	-	-	-
定点 当たり	広島市	第25週	-	0.67	4.25	7.33	0.25	3.96	0.08	0.50	-	0.38	0.17	-	-	2.25	-	-	-	0.14
		第26週	-	0.71	2.83	6.17	0.21	3.63	0.08	0.33	-	0.46	0.13	-	-	1.88	-	-	-	-
		第27週	-	0.71	2.00	7.71	0.13	5.50	0.38	0.50	-	0.75	0.13	0.25	0.13	1.50	-	-	-	-
		第28週	0.05	0.54	2.08	6.38	0.46	8.04	0.13	0.38	-	0.58	0.25	0.25	-	1.50	-	-	0.14	-
		第29週	0.03	0.58	2.63	4.58	0.33	8.17	0.04	0.17	0.17	0.83	0.13	0.38	0.13	1.00	-	-	-	-
	全国	第27週	0.18	0.93	2.68	5.26	0.40	5.74	0.12	0.57	0.01	1.50	0.52	0.37	0.02	0.82	0.02	0.05	0.25	0.01
		第28週	0.20	0.83	2.37	4.87	0.35	8.27	0.11	0.55	0.01	2.24	0.52	0.57	0.01	0.88	0.02	0.04	0.25	-

■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
その他の呼吸器疾患	細気管支炎	0	女	2017/06/12	鼻汁	ライノウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(38.5) 鼻炎	0	男	2017/06/14	鼻汁	ライノウイルス
その他の消化器疾患	腹痛	3	男	2017/06/14	糞便	アデノウイルス2型
その他の消化器疾患	発熱(38.6) 腹痛	0	男	2017/06/15	糞便	アデノウイルス1型
その他の疾患	発熱(38.3)	0	女	2017/06/11	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス3型
その他の疾患	発熱(38.2)	0	男	2017/06/13	咽頭拭い液 鼻汁	ライノウイルス

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

★ダニ類が媒介する感染症に注意しましょう！

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、日本紅斑熱、つつが虫病などは、ダニ類が媒介する感染症です。特に、マダニの活動が盛んになる春から秋にかけては、次のような対策をとることが重要です。

- ・山や草むらに入るときには、長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴(サンダル等は避ける)、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくして、ダニの付着を防ぎましょう。
- ・屋外活動後は入浴し、ダニが付着していないか確認しましょう。

ダニが吸着していた場合は、皮膚科を受診し、除去してもらってください。また、マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が出た場合には医療機関を受診してください。

【参考】厚生労働省「ダニ媒介感染症」 <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>

夏休みにおける海外での感染予防について(厚生労働省)

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/travel-kansenshou.html
(海外で注意すべき感染症とその予防対策について掲載されています。)

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2017年第29週(7月17日～7月23日)